

熊本県内路線バス事業に関する データ公表について

2023年9月

熊本地域路線バス共同経営推進室

データ公表の目的

■公共交通についてご理解・ご協力頂くため

・路線バスをはじめとする公共交通を維持・拡充していくためには、バス事業者が共同経営に関する取組などを進めるとともに、県民の皆様や沿線自治体、他の交通事業者など様々な方の、ご理解とご協力が必要です。

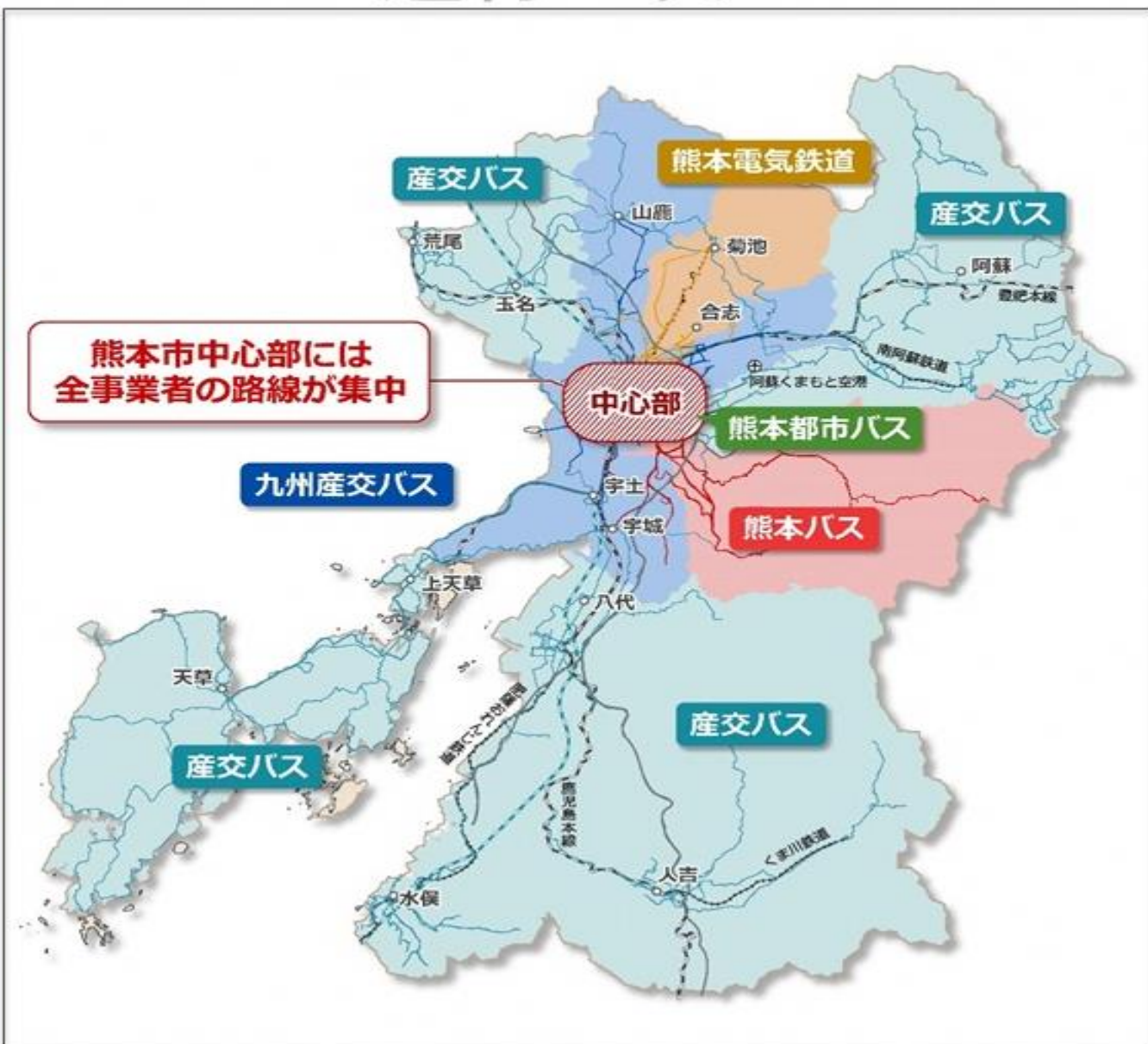
■公共交通をもっとご利用いただくため

- ・データを定期的に公表することで、路線バスの現状や取組にご興味を持っていただき、より多くの方が路線バスをはじめとする公共交通をご利用いただくきっかけになれば幸いです。
- ・また、公共交通をご利用いただくことは、ご自身の健康増進・環境負荷の軽減・交通渋滞の緩和・将来にわたる公共交通の維持や拡充などに繋がることが期待されます。

■地域のまちづくりに貢献するため

- ・例えば、地域の方針に沿った使いやすいバス路線網への再編などにより、地域のまちづくりに貢献していくことを目指します。このために、路線バスに関する様々なデータを関係者の皆様と十分に共有していきます。

運行エリア

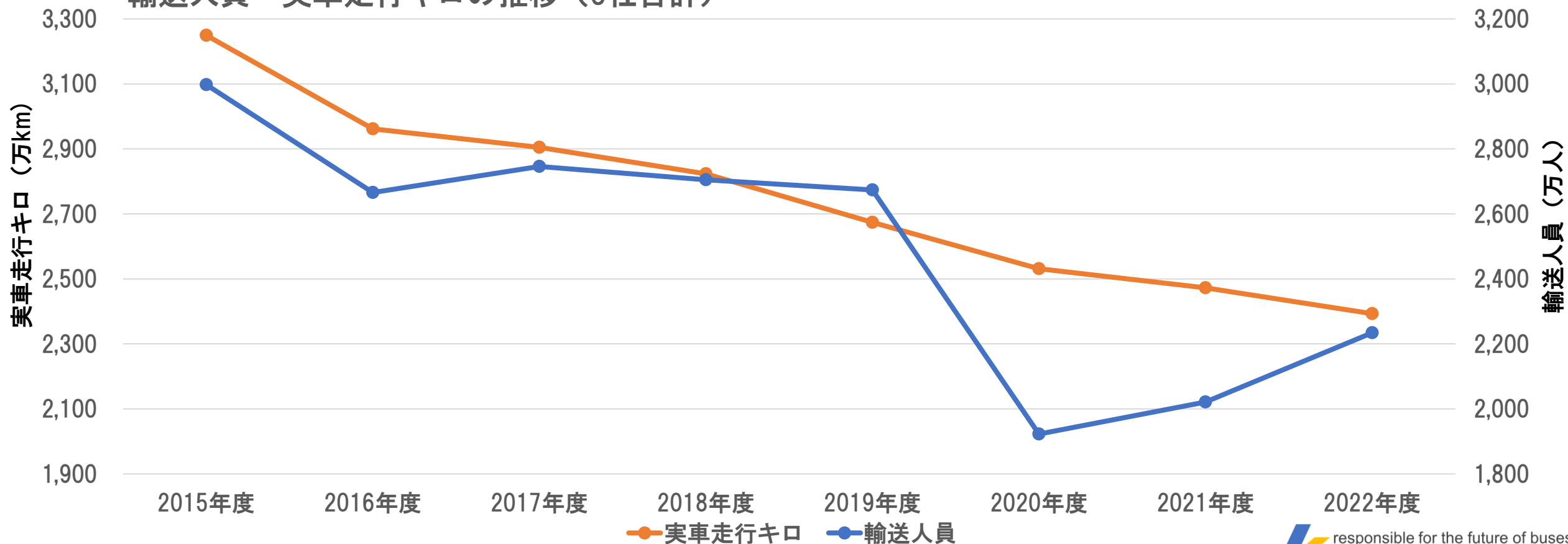


輸送人員・走行キロの推移（5社合計）

路線バスの輸送人員は年々減少し、この7年間で約25%減少、実車走行キロ（※）は7年間で約26%減少。2016年度は熊本地震の影響で輸送人員・走行キロ共に大幅に減少したが、輸送人員は翌年度以降徐々に回復傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う移動・行動制限の影響で2020年度、2021年度は輸送人員が大きく減少した。2022年度は新型コロナウイルスの規制緩和に伴う人流の回復があったものの、コロナ前の2019年度の輸送人員と比べ、約17%減少している。また、運転士不足により一部路線の減便運行を実施したことで、実車走行キロも右肩下がりとなった。

※営業運行した走行キロ（回送は除く）

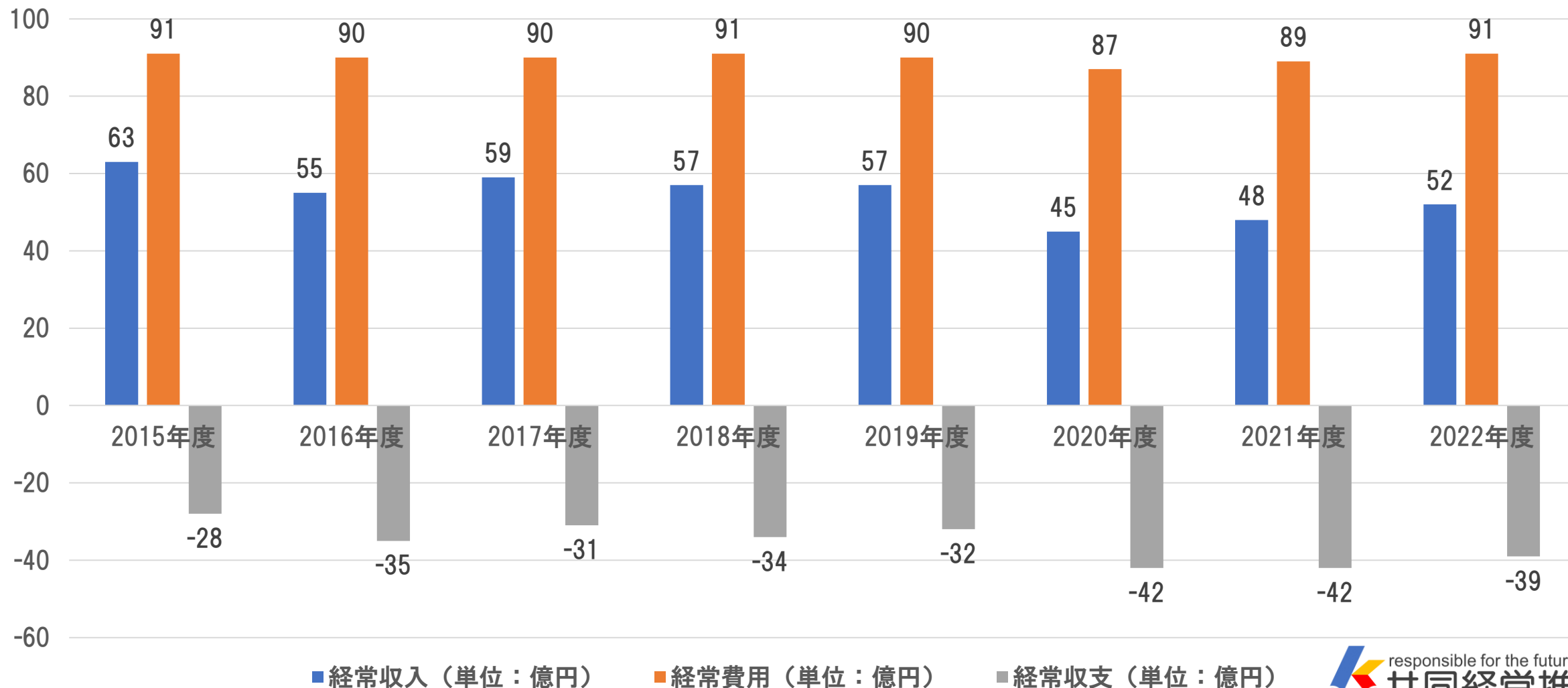
輸送人員・実車走行キロの推移（5社合計）



路線バス事業の経常収支の推移（5社合計）

輸送人員の減少に伴い、路線バスの経常収入はこの7年間で約19%減少。一方、移動・行動制限の中でも、生活の足として公共交通サービスを提供する必要があったため経常費用はほぼ横ばいであるが、2022年度は原油、物価の高騰によりコスト増大し、経常収支はさらに厳しい状態となった。

※算出方法の見直しをしたため、前年度公表のものから一部数値が変化しております。

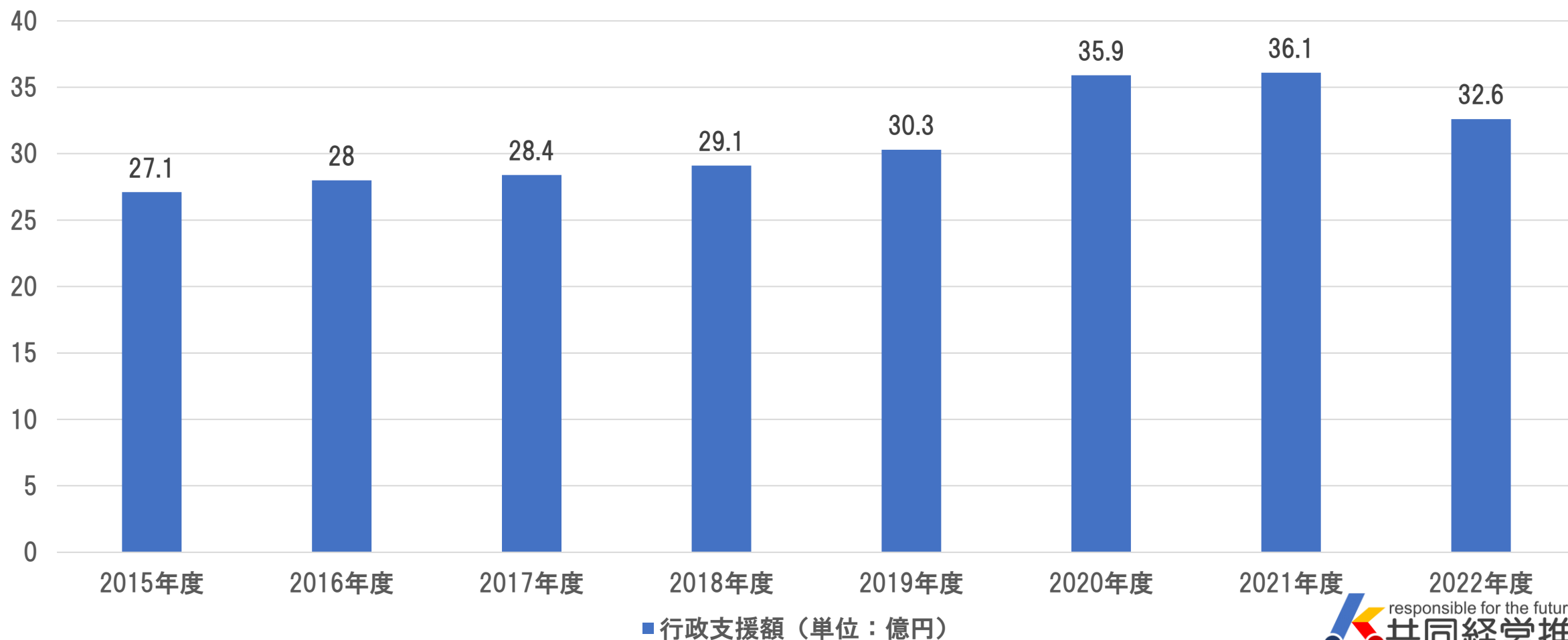


路線バス事業に対する行政支援額の推移（5社合計）

バス事業者の経常収支の悪化により行政支援額（※）は増加している。2022年度は、新型コロナウイルスの影響による減収があった2020年度、2021年度と比較すると減少したが、全体としては増加傾向である。今後も利用者が減少していくと行政支援額が増える可能性がある。

※国、県、市町村からのバス運行に関する補助金

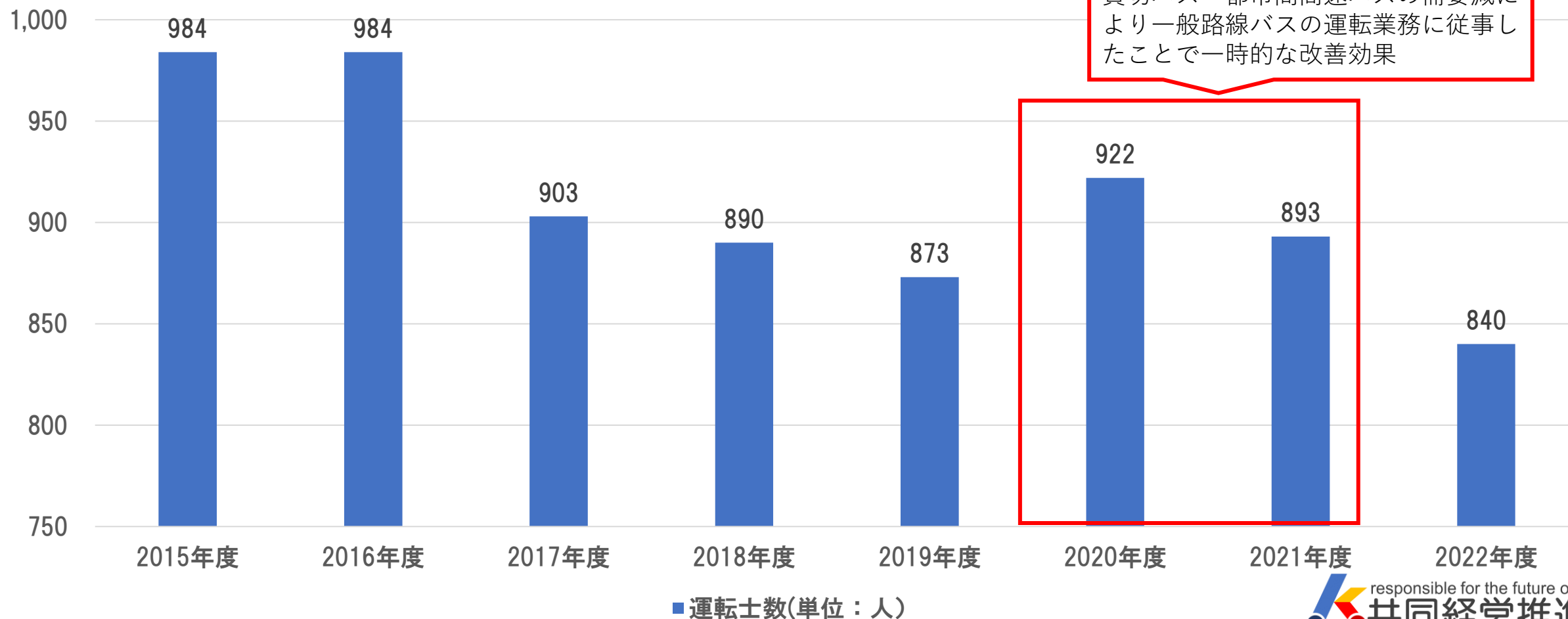
※雇用調整助成金など、減収に対する補助金以外は除く



路線バスの運行に従事した運転士数の推移（5社合計）

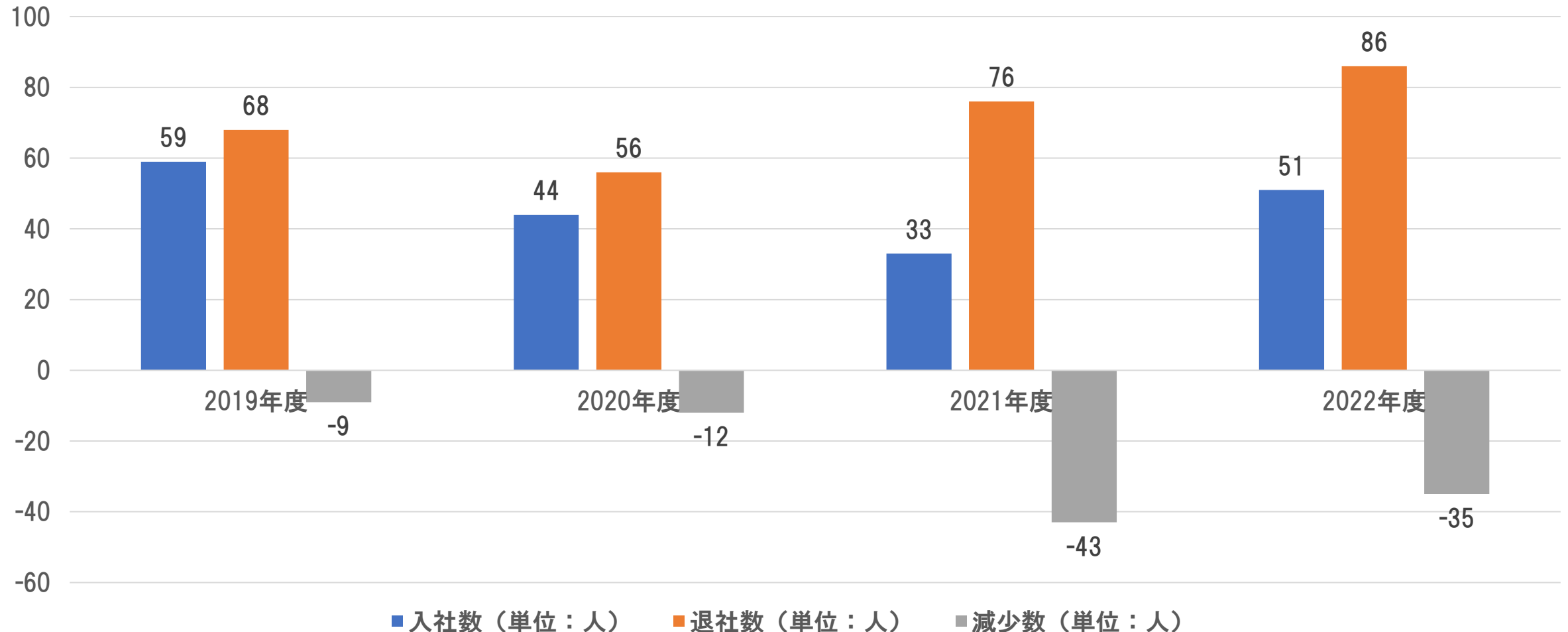
全国的に自動車運転の職業（※）に関する人手不足が深刻化しており、乗合バスの運転士の確保においても課題が生じている。2020年度、2021年度はコロナの影響により高速バス・貸切バスの運転士を路線バスに従事させたことで一時的に緩和したが、2022年は貸切バスや都市間高速バスの運転士を一般路線バスに振り向けることができず、運転士不足の状況は続いている。

※路線バス、貸切バス、トラック等運転の職業 職業分類表より（厚生労働省）



路線バスに従事できる運転士の過去4年間の入退社数（5社合計）

2019年度～2022年度の入退社数は、入社187人に対し退社286人となり4年間で99人減少した。このような運転士不足の状況の為、一部路線で減便運行、各社間の路線移譲、委託運行等を実施し運行路線を維持してきた。

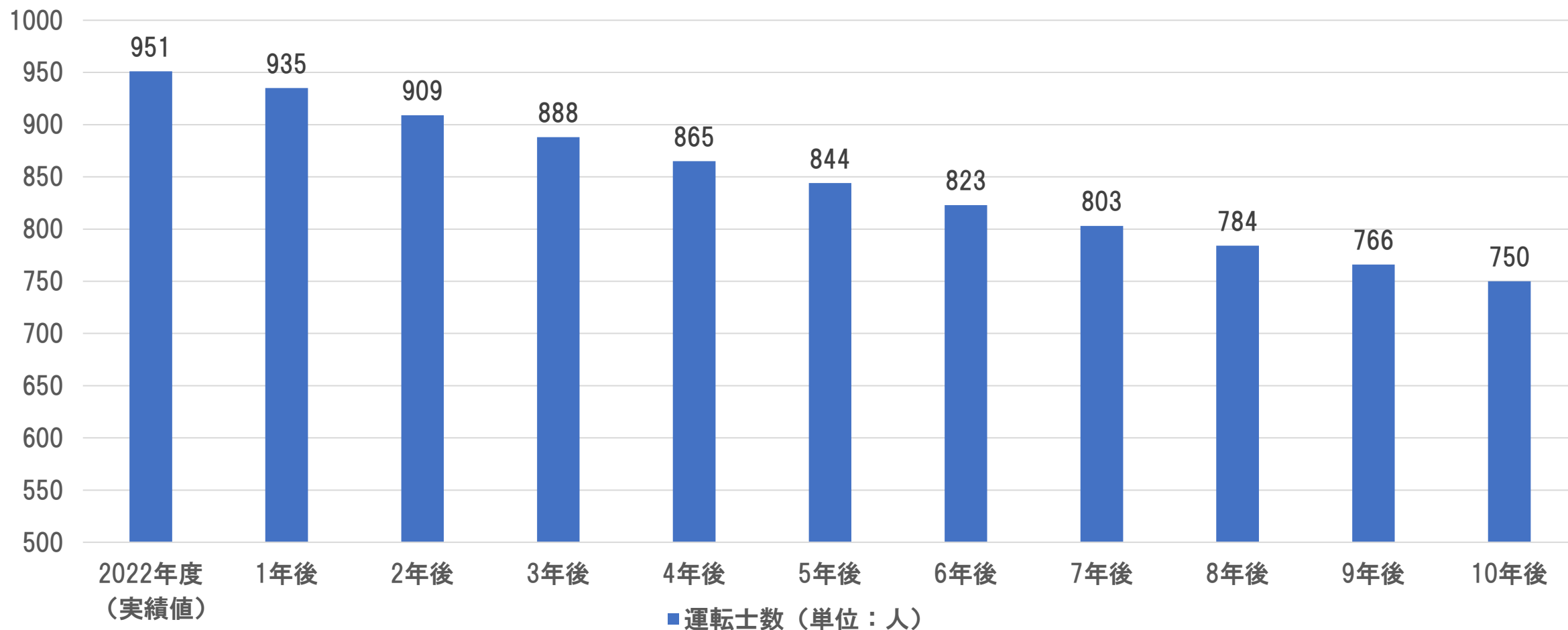


※調査方法を見直したため、前年度公表したものから数値が変化しております。

在籍運転士の将来予測（5社合計）

2016年熊本地震以降、乗合バスの運転士不足が深刻化しており、将来の運転士確保においても課題が生じている。過去の入退社数トレンドや経年による年齢構成変化を基に将来の在籍運転士数（※）を予測した結果、**今後10年で201人減少**する結果となった。

※貸切・高速バスに在籍する乗合バスに乗務できる運転士を含む



※直近の傾向を踏まえ、前年度公表したものから数値が変化しております。

※令和5年10月4日一部数値を修正

5社合計値一覧

	2015年度 (H27)	2016年度 (H28)	2017年度 (H29)	2018年度 (H30)	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
輸送人員 (単位：千人)	29,974	26,656	27,460	27,050	26,737	19,225	20,211	22,342
実車走行キロ (単位：千キロ)	32,492	29,617	29,048	28,235	26,742	25,313	24,727	23,928
系統数	600	592	573	531	518	513	498	497
乗合バスに従事した 運転士数	984	984	903	890	873	922	893	840
路線バスに従事できる 運転士の入社数	—	—	—	—	59	44	33	51
路線バスに従事できる 運転士の退職数	—	—	—	—	68	56	76	86
車両数	895	883	880	848	826	792	796	790
経常収入 (単位：百万円)	6,302	5,530	5,923	5,688	5,719	4,529	4,769	5,162
経常費用 (単位：百万円)	9,057	8,995	9,019	9,095	8,955	8,682	8,919	9,090
経常収支 (単位：百万円)	▲2,755	▲3,464	▲3,096	▲3,407	▲3,236	▲4,153	▲4,150	▲3,928
行政支援額 (単位：百万円)	2,713	2,797	2,844	2,914	3,032	3,592	3,611	3,262